

自律的な質保証への転換

原 和世(社団法人台湾評鑑協会リサーチフェロー、学校法人大東文化学園監事、
Board Member of International Network for Quality Assurance
Agencies in Higher Education(INQAAHE))

講師略歴

大学基準協会において長年、大学評価(機関別評価、専門職大学院認証評価)、国際認証、調査研究等に関する業務に従事。第4期認証評価への対応や国際的な質保証活動にも携わる。
2026年6月より台湾評鑑協会(TWAEA)所属。INQAAHE 理事、学校法人監事。

プログラム概要

2025年度から第4期認証評価が始まり、大学には、認証評価への対応にとどまらず、「内部質保証」を実質的に機能させることがこれまで以上に求められています。本プログラムでは、18歳人口減少や高等教育政策の変化、「知の総和」答申、「新たな評価」の検討状況、国際的な質保証動向などを踏まえながら、大学における内部質保証の現状と課題について考えます。特に、「評価対応」が目的化してしまう状況や、改善サイクルの形骸化、部署間連携の難しさなど、現場で生じやすい課題を共有しつつ、教職員が主体となって質保証を機能させるために何が必要かを検討していきます。講義を中心としながら、参加者同士で意見交換を行う時間も設け、各大学での実践につなげる視点を得ることを目指します。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

大学・短期大学等において、教育改善、内部質保証、教学マネジメント、学生支援、IR、組織運営等に関心を持つ教職員

到達目標

1. 第4期認証評価や近年の高等教育政策における内部質保証の方向性を説明できる。
2. 大学における内部質保証の課題を、自大学の状況と関連づけて整理できる。
3. 教職員が主体となって内部質保証を機能させるために必要な取組を具体的に述べることができる。
4. 内部質保証を特定部署のみの業務ではなく、大学全体の課題として捉えることができる。